

評価項目	評価目標	具体的方策	取組状況	自己評価	次年度に向けた改善策
1 就農準備段階から新規就農者の定着までの幅広いニーズに対応した研修の実施	(1)定員充足率 :80%	① 経営の発展段階に応じた研修の実施【継続】 新規就農を志す者を対象に、就農に必要な実践的な栽培技術と知識を習得する「新規就農支援研修」「働きながら学ぶ農業入門講座」を実施する。また、就農5年目程度までの農業者等を対象に経営に必要な経営力を学ぶための研修として「農業経営力養成講座」を実施する。 そのほか、農業及び林業の体験からスマート農業等新技術の展示や地域農業のリーダー経営体育成を目的とする研修まで、動機づけ段階から経営発展・確立段階までのそれぞれのニーズに対応した各種研修を実施する。	・新規就農希望者を対象として、優れた農業経営者による講義や試験研究機関での実習と当該での講義等を組み合わせた1年間の長期研修「新規就農支援研修」を、受講者26名、他研修機関聴講生17名で実施した。新型コロナウイルス感染防止対策を徹底しながら、一部日程の変更もを行いながら実施した。 ・就農希望の他産業従事者を対象として、稲作・野菜・果樹の3コースで専門知識を学ぶ「働きながら学ぶ農業入門講座」を実施した。稲作コースは山形市で実施し、受講者9名、果樹コースは河北町で実施し受講生47名、野菜コースは天童市で実施し受講生29名となった。新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し、いずれも各7回実施した。 ・経営力養成講座は「事業計画作成支援研修」は32名が参加し、「経営マネジメント研修」は20名、「農業簿記ソフト活用研修」は16名の参加となった。 ・スマート農業等新技術の展示は、農林大の授業を公開講座として3回実施し、研修生・農業者等延べ10名の参加となった。 * 定員充足率は、「新規就農支援研修」が86%、「働きながら学ぶ農業入門講座」が121%、「経営力養成講座」は113%となり、平均107%であったことから、「B」評価とする。	(1)研修定員充足率 ・・・B(107%) ・新規就農支援研修 :86% ・働きながら学ぶ農業入門講座 :121% ・経営力養成講座 :113%	・「新規就農支援研修」の受講生は新規就農を目指して研修に参加していることから、就農定着に向けて、円滑な農業開始が図られるよう関係機関・団体と連携した支援を継続する。また、研修生からの要望がある。集合研修の際の実習を強化する方向で検討する。 ・「働きながら学ぶ農業入門講座」の稲作コースは、県ほぼ中央にある村山地域に会場に実施しているが、遠隔地での参加を促進するためにも、オンラインでの配信等について検討する。
2 企業の経営体の育成や新分野の事業展開を支援する研修の実施	(1)定員充足率 :80% (2)各塾の修了率 :90%	① 企業の経営体（リーダー経営体）の育成支援【継続】 生産力・収益性の高い経営者でありながら、スマート農業等の先進技術の導入や、多様な人材の活用、労働環境の改善等、地域づくりや人づくりができる地域農業のリーダー経営体の育成を目指し、経営管理、労務管理、事業計画作成をはじめとした高度な経営手法等を学ぶ「やまがた農業リーダー育成塾」を実施する。今年度は、当塾修了者から一部研修に参加していただいで交流を図り、リーダー経営体育成の充実を図る。 ② 女性農業者の育成支援【継続】 若い女性農業者が、新たな事業展開等に意欲的に取組み、自らの経営部門を持って活躍できるよう、実践的な販売力や経営力の習得を支援する「アグリウーマン塾」を実施する。今年度は、研修修了生を含めた女性農業者のマネジメント能力向上に向けた研修の充実を図る。 ③ 6次産業化や新分野導入等への支援【継続】 乳製品加工施設を活用しながら、乳製品の加工・販売を目指す農業者等を対象に、チーズの基礎的知識と製造技術までを学ぶ「乳製品加工研修」を実施する。	・本県農業を牽引するリーダー経営体の育成を目的とする「やまがた農業リーダー育成塾」については、事業計画策定方法、経営理念の理解、マーケティングや労務管理や人材育成の進め方を通じてのリーダー経営体として必要な知識やスキルを習得する全9回(9日間)の講座を実施した。また、全9回の講座のほか、事業計画のブラッシュアップを目的としたオンラインゼミを9回実施した。その結果、受講者15名全員が事業計画を作成し、その発表が出来るように支援が出来た。また、専門家による事業計画へのコンサルティングを行い、経営発展のための個別支援も実施した。 ・「アグリウーマン塾」については、女性の感性を活かしたビジネスプランの策定を目指し、課題の抽出や解決に向けた対応方法、ビジネスモデルの組立等を実践的に学ぶ全6回の講座(講義、演習)を計画し実施した。また、研修会場での参加とオンライン参加を併用しての開催も実施して、受講者が参加しやすい体制を図った。その結果、受講生は令和5年1月に事業計画の発表を行い、12名中11名が受講を修了した。 ・研修修了生等を対象に、現地視察交流会や、ゲーム感覚で経営力向上を図るマネジメントゲーム研修を実施し、研修修了生の交流促進と経営力向上に向けたフォローアップを実施した。 ・チーズの製造加工を目指す農家等を対象として、チーズ製造の基礎知識や製造実践技術などを学ぶ農業ビジネス支援研修「チーズ加工研修」を計画し、コロナ禍の中で、学生への感染防止に十分配慮し、3月6日にチーズの基礎知識に係る講義を実施し、3月7日に乳製品加工施設を活用し、加工実習を行った。 * 定員充足率は、「やまがた農業リーダー育成塾」が150%、「アグリウーマン塾」が100%、「農業ビジネス支援研修」が110%、平均120%であり、目標の80%を上回って達成したことから、「B」評価とする。また、修了率は、「やまがた農業経営実践塾」が100%、「アグリウーマン塾」が92%となり、平均96%と目標の90%を上回って達成したことから、「B」評価とする。	(1)定員充足率 ・・・B(120%) ・やまがた農業リーダー育成塾:150% ・アグリウーマン塾:100% ・農業ビジネス支援研修:110% (2)各塾の修了率 ・・・B(96%) ・やまがた農業リーダー育成塾:100% ・アグリウーマン塾:92%	・当講座は、リーダー経営体として必要な経営スキルやスマート農業等の先進事例を学び、受講生自身の中長期的な事業計画が作成できるように講座カリキュラムを組んでおり、令和4年度は各講座の出席率も高く、全員が修了の見込みである。令和5年度についても本県の農業をけん引するリーダー経営体にふさわしい受講生確保に向け、引き続き農業技術普及と連携しながら、当講座を実施していく。 ・塾における課題への取り組みや参加者同士の意見交換を通して、受講生の意欲向上が図られている。普段孤立しがちな女性農業者の交流にも繋がっている。 ・令和5年度は、新規の受講生だけでなく、これまで受講した修了生のフォローアップを含め、講座内容の強化を検討していく。 ・チーズの製造加工を目指す農家等を対象として、チーズ製造の基礎知識と製造実践技術を組み合わせた研修を引き続き実施していく。また、農林大農産加工経営学科の学生の参加も促し実施する。

自己評価	自己評価
<ul style="list-style-type: none"> ・新規就農を志す者、新規就農者、就農定着段階の農業者と経営の発展段階に応じた研修を行っており、上記のように多くの研修で、定員充足率を達成または概ね達成することができた。 ・「新規就農支援研修」については、地域のリーダー的な農業者や試験研究機関、農業技術普及課、市町村、JA等関係者や関係機関が連携し支援したことで、ほとんどの研修生が令和5年度の就農に向けて準備を進めている。 ・農業者の経営力向上・新分野事業展開を支援する研修については、経営発展に意欲的な若手農業者や女性農業者に対し、事業計画作成を中心に経営発展に必要なスキルの習得を支援することが出来たと考えられる。 ・コロナ禍の中でも、その感染対策を徹底することで、当校主催の研修に起因する感染者の発生は確認されなかったことは大変よかったと考えている。 ・研修生からは、「理解が深まった。」、「参加して良かった。」、「現場で活用したい。」との声が寄せられており、好評であった。今後も、受講者の要望等を把握し、研修カリキュラムのブラッシュアップを図ってきたい。 	<p style="text-align: center;">B</p>

学校関係者評価(意見・要望等)→現在の取組状況・次年度の改善策	学校関係者評価(意見)	評価
<ul style="list-style-type: none"> ・農業高校でもスマート農業の推進のため、ドローンを整備することとなった。農林大学校の指導ノウハウを取り入れるべく連携を図りたい。 → スマート農業に関する公開授業に参加を案内するなど、ドローンに関して連携できる部分を連携していきたい。 ・チーズ製造等、新分野導入は難しい壁がある。現在、米粉の活用やその事業化に注目している。今後、米粉加工を研修に取り込んで欲しい。 → 県では、米粉の利用拡大に米粉拡大オーダーメイド研修を開催するなど、積極的に取り組んでいる。今回の要望については、県庁の農産加工・販売等に関する人材育成・起業支援の担当に伝えたい。 ・「乳製品加工研修」は、ごく一部の方、向けだと思うので、初期投資があまりかからず、始めやすい(漬物等)の加工研修をやってみたらどうでしょう。 → 県では漬物加工を含めた6次産業化に取り組んでおり、本校では、衛生管理が難しい乳製品の加工研修を担当している。 ・スマート農業の公開講座が行われていることを知らないは多いと思います。農機具メーカーや市町村、JAなども連携してお知らせいただければありがたいです。 → 現在は各地域の農業技術普及課を通じて案内しているが、本校の公開講座は学生優先のため、人数制限があることを御理解いただきたい。なお、各地域の普及課でもスマート農業の研究会などを行っているので、参加を検討いただきたい。 ・研修の募集もインスタ等で集め、若い人達にも周知してもらい、6次産業化する人が増えれば良いと思います。 → これまで「やまがたアグリネット」で研修の周知を図ってきたが、今年度より、リニューアルした農林大ホームページからも広報し、周知の強化を図っている。まずは、両ツールを利用した広報を継続して、実施していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍による制約ある活動も知恵を出し合い、成功できたと思う。 	<p style="text-align: center;">B</p>